

学校教育目標 「豊かな心とたくましさを持ち、確かな学力を身につけ続ける子どもの育成」

めざす子ども像 ○たくましく しなやかな子 ○かんがえ 行動する子 ○つながる子 ○のびる子

評価の基準
 1:ほとんど達成できていない
 2:3~4割程度達成できた
 3:5割程度達成できた
 4:6~7割程度達成できた

	重点項目と具体的方策	評価の観点	評価	○成果と●課題	改善策	児童アンケート項目	保護者アンケート項目	地域アンケート項目	運営協議会意見
学力育成	考えを伝え合う学級を目指すために、話を聴くこと、そして、内容を理解することの資質・能力の育成を目指す。	聴くことや理解することを旨とした授業実践や取組を行い、児童の資質・能力が育成されたか。(発言、成果物やテスト、学力調査結果等)	3.5	○全校で取り組んだことで、聴く姿勢が身についてきた。例えば、手を置いて聴く、顔を上げて聴く、黙って聴く、相手の方を向いて聴く、相槌を打つ等の態度面から、聴くときの視点を明確にする、質問や感想を言う、自分の考えを持つ、自分の考えと比べながら聴く、理由を考える、伝え方を考える等の理解面や技能面での指導を行ってきた。個人思考、ペア、グループ、全体での学習と段階的な実践にも取り組んだ。 ○教職員で実態把握を確認しながら進めた。 ●学力の個人差がある。 ●文章の読み取り、理解に課題がある。 ●すぐに大人に頼ってしまうところがある。	・個別の指導時間を確保する。 ・ICTの活用を進める。 ・宿題の工夫(表現する、まとめる等)を行う。 ・学力調査などの分析をもとにしながら、子どもの実態をしっかりと把握する。そして、そこを見据えた授業づくりを全校で考え、実践する。	・授業の内容はよくわかった。→92% ・授業中、友だちの話をよく聞いたり、友だちと話し合ったりすることができた。→94% ・お家での勉強はできた。(1・2年20分、3・4年40分、5・6年60分)→81% ・タブレットに毎日電源を入れて、ドリルや文字入力、カメラなどに使うことに慣れてきた。→91%	・学習内容が身につくように、学習指導を行っている。→90%(わからない7%)	・子どもの学習内容が身につくように、学習指導を行っている。→64%(わからない36%)	・ふるさと教育について、子どもたちの頑張りや保護者にも伝わっているようであらう。 ・子どもたちは楽しく落ち着いて過ごしているようであらう。子どもたちはしっかりしている。 ・保護者や地域でのアンケート回答に「わからない」があることは、たしかに学校の様子がわからないところがある。回答に悩む。回答しやすいアンケート項目にするため見直しをしてほしい。
ふるさと・キャリア教育	キャリアパスポートに学習を記録、振り返りをし、自己の変化や成長を自己評価するとともに、自己理解を深める。	キャリアパスポートを活用し、経験したことや成長したことが記録されているか。	4	○各学期、行事の後に振り返りをし、自分の取り組みを振り返る機会を設けた。 ○より自分を高めようとする意欲付けとなっている。 ○キャリアパスポートのシートは、活動の感想を書くだけでなく、自分や友だちの取り組み、成長したこと、上手く行かなかったことなどが具体的にふり返ることができるように作った。そして書けるようになってきた。 ●記入して終わりになっており、成長を振り返る機会をとっていなかった。	・自分の頑張ったこととできなかったことを見つめ、自分の目標を立てたり、直すべきところを書いたりするなど、高角小全校で自己を見つめるキャリアパスポートに取り組む。	・ふるさと「島根、江津、嘉久志、和木」のことを勉強して新しいことを知ることができた。→81% ・キャリアパスポートで、自分のことを振り返ることができた。→93%	・嘉久志・和木の地域やふるさとへのひと・もの・ことを生かした学習を行っている。→85%(わからない13%)	・嘉久志・和木の地域やふるさとへのひと・もの・ことを生かした学習を行っている。→86%(わからない14%)	・家庭で子どもと保護者がもっと会話できるような取組をしてみてもどうか。 ・あいさつ、言葉遣いやはきものそろえ等は家庭での取組も重要。保護者との連携を図る取組をしてみてもどうか。
人権教育	人権に関する内容の授業や活動を行い児童の人権感覚を高める。	アンケートで「学校生活が楽しい」と回答した児童の割合が増えたか。	3.9	○授業を中心に、それ以外の場面でも児童の様子を見て、言葉づかいや友だちとのかかわり方について指導したり、いっしょに考えたりした。 ○道徳の授業を活用し、人権感覚を養う指導をした。 ○人権集会で、相手の気持ちを考える取組がよかった。 ○学校が楽しい、安心できる場所だと思って過ごしている児童が多いように思う。 ●常に生かすことができない。応用ができない。 ●自分がしたことに対する振り返りやまわりの人への感謝の気持ちが薄い。	・身近な事例(良いことも悪いことも)を取り上げながら、自分のこととして考えていけるようにする。 ・自分自身を見つめる時間を作ったり、視点をもって周りの人への感謝の気持ちを考えさせたりする。	・学校で楽しくすごせた。→92% ・困ったり、悩んだりしたとき、友だちや先生や大人に相談して、安心した。→85% ・友だちが困っているとき、声をかけたり、助けたりすることができた。→93%	・トラブルやいじめに適切な対応を行っている。→63%(わからない29%)	・登校班の集まる場所までは保護者の見守りがほしいところである。 ・いじめについては、早期発見、早期解決を目指してほしい。 ・物を丁寧に扱わない様子が見られた。声のかけ方を工夫したら意識するようになった。	
高角のふるまい	廊下歩行・あいさつ・返事・言葉づかい・掃除・はきものそろえに重点をおいた取り組みを計画・実行し、互いに気持ちよく過ごせるようにする。	生活委員会や他の委員会の活動の中で自分たちの生活を見直し、取り組みをすることで、子どもたちの意識が高まったか。	3.9	○児童の実態に応じて各委員会が様々な企画を立てているので、子どもたちは、意識することができ、とても意欲的に取り組んでいる。 ○生活目標では、全体での目標があり、そこから学年の目標を考えることは良かった。廊下の印等、意識しやすい工夫もありよかった。 ○高学年が見本を見せている。 ●廊下歩行はなかなか良くならない。 ●トイレのスリッパが乱れているときがある。 ●呼び捨てや言葉遣いが気になる。	・廊下歩行や言葉遣いについてはその時だけでなく年間通して取り組んでいく。 ・学校全体で同じ姿勢や対応で指導する。 ・継続して粘り強くくりかえし指導することが大事である。	・あいさつや返事、言葉づかいに気をつけて、友だちや先生と気持ちよくすごせた。→88% ・「廊下は歩く」「はきものをそろえる」など学校生活のめあてを守って生活できた。→85% ・掃除をがんばった。→99% ・毎日、運動できた。→88%	・あいさつが向上するための取組を行っている。→63%(わからない28%)	・学校が行っているふるまい向上の取組により、子どもたちのあいさつは向上している。→93%(わからない0%) ・子どもたちの地域での生活の様子から、交通ルールを守ることや危険な遊びをしないなど、安全に生活している。→79%(わからない14%)	

	重点項目と 具体的方策	評価の観点	評価	○成果と●課題	改善策
教務部	朝活動の工夫を行い、落ち着いた学校生活、授業にむかえるようにする。	朝のチャイム着席、静かな環境で朝学習に取り組めたか。	4	<p>○全体的には静かにできている。100問繚乱、タイピング検定など、ランキングがあり意欲的に取り組んでいる。</p> <p>●学級の実態に応じて「静かに、落ち着いて過ごす」を目標にしているため、全校で決められた通りの内容にはなっていない。(タブレットが多くて読書が少ない傾向)</p> <p>●8:10から朝の学習という意識が薄い。係活動や委員会などの活動もある。</p>	<p>・8:10～朝の学習という意識を持たせる。それまでに片付け、係や委員会の仕事を終わらせる。</p> <p>・学習内容について吟味が必要である。</p>
研究部	自ら考え、考えを伝え合う子どもを育てるために、話を聴く子どもを育てられるよう、教職員の学び合いを通して授業づくりや指導を工夫する。	子どもたちが話す人の話を聴きながら、学び合うことができたか。	4	<p>○教職員全体で、子どもの実態から研究の方向性や具体的な取り組みなどを決め、共有しながらスタートすることができた。</p> <p>○アンケートをとったことで、子どもの実態を把握できた。</p> <p>○授業を一人1回行ったことで学び合うことができた。</p> <p>○ペアでは聞くことができる。意図的に席を決めることで話ができています。</p> <p>○全員が話し合う場面を設定して授業をするよう、授業に取り組んでいた。</p> <p>○話す経験を積み重ねてきたことで、話そうとするようにはなった。</p> <p>●その都度、少しの時間でも集まって振り返りができると良い。</p> <p>●1学期末からスタートし、バランスの取れた授業計画ができると良い。</p> <p>●全体へ話すこと、話し合う力をつけることは今後の課題である。</p>	<p>・1学期から授業実践ができるよう、計画を立ててもらう。</p> <p>・教職員が、アンケートの項目を意識して指導できるように、見える場所にカードを貼るなど意識づけの工夫をする。</p> <p>・児童の事前アンケートを1学期のできるだけ早い時期にとる。</p> <p>・子どもたちが参考にできるように話し方や聞き方の型を提示し、経験させていく。</p>
総務部	校内環境及びパソコンデータ内の整理と業務の見直しを行い、働きやすい環境づくりに取り組む。	校内環境整備や業務の見直しを実践してきたことが、教職員にとって働きやすい環境となったか。	4	<p>○校内環境については、順次部員を中心に片づけを進めてきた。</p> <p>○パソコンデータ内も少しずつ整理を進めてきた。ICT支援員の協力も得ることができた。</p> <p>●これまでのパソコンデータの量が膨大であり、まだまだ整理に時間を要す。計画的に進めていく必要がある。</p>	<p>・パソコン内のデータについては、各担当の受け持つところもあるので、一度には消去できない。校内で保存する期間や場所についての規定を作成してみたい。また、職員会議の時間や長期休業中等、職員全体で過去のデータを確認して消去したり、内容の整理をしたりする時間の設定をしていきたい。</p>
指導支援部	児童の多面的な情報を集め、有効な支援を行うことを通して、安心できる学校生活を指す。	日頃の実態把握や教育相談週間を活用して、より良い関係づくりに意識して取り組んだことは、不登校が少しでも改善され、他の子どもたちも安心して学校生活を送れるようになったか。	4	<p>○担任を中心に、ケース会で話したことを実践し、子どもや保護者と関係を作って取組ができた部分が大きかった。</p> <p>○アンケートQ-Uや教育相談、子どもの様子観察などから、職員同士で情報交換をし、職員全体でより良い声掛けや対応ができるように努めた。</p> <p>●全校で指導する内容にばらつきがあるところが気になった。決めたことや確認したことは、やる意味をしっかりと伝え、共通して行っていきたい。</p>	<p>・今年度のように、不登校傾向児童についてケース会を設け、子ども、保護者の願いを大事にしながら少しずつ改善されるようにしたい。また、進学や進級を考えて今できることを考えていきたい。</p>